

平成 27 年度 目録システム講習会（雑誌）講義要領 9 セルフチェックテスト

セルフチェックテストの目的

1. 受講者自身がその日に学んだ内容の理解度をチェックする
2. 共通して理解が低かった点について、講義の補足を行う

セルフチェックテスト1

範囲: 目録検索, 補講 1, 書誌流用入力, 書誌新規作成

- 間違いの多かった問題等について解説を行う.
- テスト結果から理解度に不足の見られる受講者については, 演習中等, 進度に注意を払うようにする.

【解答の確認の例】

適宜問題に対応して検索用インデクスの説明を行う.

登録総論の全体図(p.51)を使って説明することもよい.

初号ありと初号なしで特徴的なフィールドの記述をテキスト p.82 の表などを使って説明することもよい.

	YEAR	PUBDT	VLYR	NOTE
初号あり例題5, 7	○	○	○	
初号なし例題6, 8	推定(19--)	×	×	記述の根拠

セルフチェックテスト2

範囲: 書誌修正, タイトル変遷, 補講 2-3

- 間違いの多かった問題等について解説を行う.
- テスト結果から理解度に不足の見られる受講者については, 自由演習等の時間で補助する.

【解答の確認の例】

書誌修正の原則の図(p.106-109)を使って説明することもよい.

補講 1, 2, に関しては講義の時間が短いので, セルフチェックテストの結果によっては補足説明を行う.